

平成27年2月2日

鹿児島大学大学院人文社会科学研究科長 殿

最終試験の概要及び結果報告書

地域政策科学専攻 氏名 有馬 晋作

学位論文題目

劇場型首長の研究 - ポピュリズム論からみた意義と戦略 -

(A Study on Municipal Chiefs for Dramatic Politics - Meaning and Strategies from Populism Theory)

最終試験の概要

平成26年1月30日17時より、4名の審査委員（主査・平井一臣、副査・木村朗、城戸秀之、畑山敏夫）により最終試験を行った。

最初に、論文の狙い、研究史上の意義、分析の概要及び分析に基づく考察と結論について有馬氏による説明がなされ、その後、各審査委員による質問に有馬氏が回答するというかたちで進めた。

まず、論文中に使用されている基本的な概念や用語（「劇場」と「劇的」、「功罪」と「メリット・デメリット」等）についての質問がなされ、それぞれの概念や用語の意味内容について有馬氏からの説明がなされた。

その後、ポピュリズムの変容の背景としての大衆社会論の内容とその把握方法、劇場型首長と他のアクターとの関係、都市型社会と農村型社会という自治体の基本構造の違いとの関係、メディアとりわけインターネットと劇場型政治との関係等について、各委員からの質問と有馬氏による説明がなされた。審査委員からは、大衆社会論についてはアメリカの大衆社会論を取り入れる必要があること、他のアクターとの関係や自治体の基本構造について必ずしも十分に触れていないこと、インターネットの問題にも踏み込んだ分析とはなっていないこと等が指摘された。これらの指摘に対し有馬氏からは、大衆社会の問題

については日本における展開過程に即して記述したこと、本論文の分析の焦点はあくまで首長の政治行動と政治スタイルにあるため、他のアクターや自治体の基本構造は副次的な扱いになったこと、劇場型首長の最大の特徴はテレビとの関係にあると考えていること、という説明がなされた。

以上の論点以外にも、西欧の比較ポピュリズム論との関係、新自由主義との関係、国政と地方政治との関係等、種々質疑応答がなされた。

試験終了後、審査委員による審議を行い、有馬氏の説明のなかには、やや不十分な点もあったものの、基本的には論文の内容を踏まえた的確な説明がなされたことを確認し、博士（学術）を授与するに値する水準にあるという結論を得た。

授与する博士学位 学術

最終試験結果 合・否

試験委員

主査 (氏名) 平井 隆

副査 (氏名) 木村 朗

副査 (氏名) 城戸 秀之

副査 (氏名) 畑山 敏夫